



2023年5月12日

各 位

会 社 名 株式会社 熊 谷 組
代 表 者 名 取締役社長 櫻 野 泰 則
(コード:1861 東証プライム)

当社特定建設工事共同企業体の工事におけるコンクリートの 単位水量試験・スランプ試験の虚偽報告及び当社の対応について

2023年5月2日に当社ホームページにてご報告しておりますとおり(「弊社JV施工の工事におけるコンクリートの単位水量試験およびスランプ試験の虚偽報告について」)、当社を代表とする特定建設工事共同企業体が施工中の「北海道新幹線、羊蹄トンネル(有島)他」において、発注者と定めた条件によるコンクリートの単位水量試験及びスランプ試験に関して虚偽報告を行っていたことが判明しました。

発注者様をはじめとされるご関係の皆様には、多大なるご迷惑をお掛けすることとなり、誠に申し訳なく改めて深くお詫び申しあげるとともに、本件に係る当社の対応について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 工事概要

工事件名：北海道新幹線、羊蹄トンネル(有島)他

発注者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

契約日：2019年2月5日

工期：2019年2月6日～2025年3月5日

施工者：熊谷・不動テトラ・宮坂・橋本川島 北海道新幹線、羊蹄トンネル(有島)他特定建設工事共同企業体

工事概要：工区延長4,245m(トンネル延長4,221m)

2. 虚偽のあった品質管理試験

- ・コンクリートの単位水量試験(コンクリート1 m^3 に含まれる水の量を測定する試験)
- ・スランプ試験(固まる前のコンクリートの柔らかさを測定する試験)

3. 虚偽の内容

- ・単位水量試験：コンクリート打設前に1回、打設開始後は50 m^3 毎に試験するところ、打設前の1回のみ正規に実施し、2回目以降を1回目の試験時にまとめて実施したにも関わらず、所定の頻度で試験を実施したと報告
- ・スランプ試験：コンクリート打設前、アーチ肩部打設前、クラウン部打設前に実施するよう規定されているのに対し、打設前の1回のみ正規に実施し、2回目以降は打設前コンクリートを試料として用いて試験を実施したにも関わらず、その結果を所定の打設箇所でも実施したものと報告

4. 対象の構造物

二次覆工コンクリート及び下部コンクリート（二次）

5. 虚偽報告発生の原因

試験を担当する生コンプラント試験室の試験員が手薄で所定の打設数量時の試験に来られないことがあり、その際に試験 2 回分を 1 回目の試験時にまとめて実施したことが起点となり今回事態が判明するまで続いた。

6. 確認に至る経緯

2022 年 10 月 22 日 下部コンクリート（二次）の単位水量試験の虚偽報告を開始

2023 年 4 月 17 日 二次覆工コンクリートの単位水量試験及びスランプ試験の虚偽報告を開始

2023 年 4 月 20 日 発注者が現場立会において虚偽報告の事象を確認

7. 当社の対応について

①対象のコンクリート強度の調査について

対象のコンクリートの強度については、現在調査を進めております。

②他の工事案件の調査について

当社の施工する他の全ての工事案件について、同様の事案がないかの確認を進めております。

③社内体制について

本事案判明以降、取締役社長の下に対策チームを組織し、上記の対応に加え、事案の把握、原因解明及び再発防止策の検討を進めてまいりましたが、本日、社長を委員長とする特任対策委員会を設置し、これらの対応を引き継ぐことといたしました。

また、経営から独立した組織である法遵守監査委員会が、社外の視点から特任対策委員会の実効性を確認・評価することにより、本事案の原因解明及び再発防止策の策定がより有効なものとなるようにいたします。なお、法遵守監査委員会は、委員長を含む弁護士等の社外委員と社内委員（常勤監査役、コンプライアンス担当役員、経営戦略室長、管理本部長、監査室長）により構成される委員会であり、当社の業務執行に対する客観的かつ専門的見地からの監視、指導及び経営などに対する勧告を行う役割を担う組織であります。

④コンプライアンス教育について

事案発生を受け、全役職員を対象に緊急のコンプライアンス研修を実施いたします。

8. 今後について

対象のコンクリートの強度についての調査結果及び業績に与える影響が判明次第、速やかにお知らせいたします。

以 上

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社 熊谷組

経営戦略室 広報部 03-3235-8155

経営戦略室 サステナビリティ推進部 03-3235-8114